

ハラグアイ

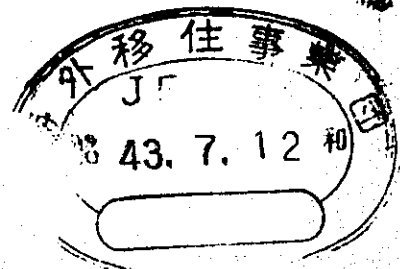
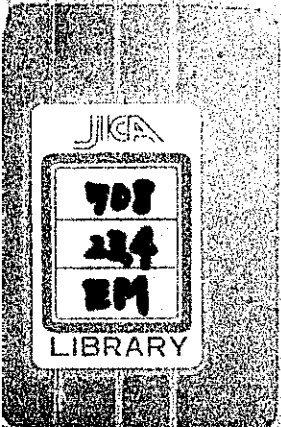


~~D-26~~  
D-24

ハラグアイ

アト・ハラナ移住地 案内  
イグアス移住地 案内

移住地案内



# PARAGUAY

JICA LIBRARY



1028825[6]

# パラグアイ

アルト・パラナ移住地 案内  
イダス移住地

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 9. 14	708
登録No. 09571	234
	EM

海外移住事業団

東京都港区赤坂田町7の1 電話 (503) 8911 (代表)

## ■パラグアイとはどんな国か

パラグアイは、400年ほど前にスペイン人探検家が開いた国で、ボリビア・ブラジル・アルゼンチンの三国に囲まれた内陸国である。

面積は日本よりやや広いが人口は非常に少なく約180万人にすぎず、その75%までは農牧業に従事している。

人種的には大多数がスペイン人と土着人グアラニー族との混血で純粋の白人は非常に少なく、主として都市に集っている。公用語はスペイン語だがインディアンの言葉であるグアラニー語も広く使われ人種的差別は殆んどない。政体は立憲共和制で大統領によって統治され、現大統領は1954年から引続きその地位にあり中南米諸国では比較的政情の落ちついた国の一つである。

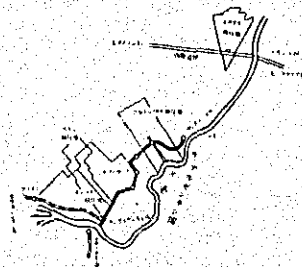
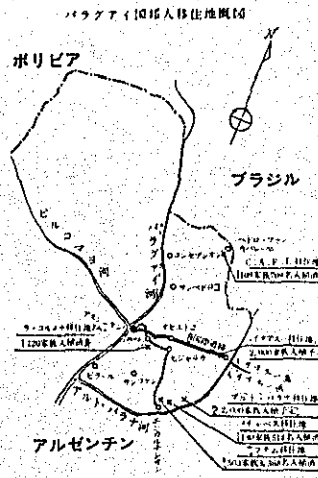
宗教はカトリック教が国教となっているが他の宗教も認められている。パラグアイの主産物は農林畜産物で、この国の輸出の大部分を占め、一口に云えば未だ開発のおくれた農牧園といえるだろう。

農産物としては、米、小麦、トウモロコシ、甘蔗、豆類、棉花、油桐、マテ茶、柑橘その他多くの果樹類が栽培されているが、農業技術のむくれから生産量も輸出もあまり伸びていない。パラグアイ政府は農事試験場の整備、新設、およびFAO（国連食糧農業機構）の協力を得て農業技術の向上を計る一方、国際道路の建設、自国商船隊の拡充を行ない、輸送力の改善を活発に進めている。

国際道路はアスンシオンから東に延びアルト・パラナ河の上に架けられた国際橋を渡りブラジルのパラナ州の首府クリチバ市を経て、両国間の協定でパラグアイ国の自由港になっているパラナグア港に出る約1200kmの一級道路で、イグアス移住地の真中を通っておりすでにバスやトラックの定期便による盛んな往来があって、産業貿易道路として今後この国の経済発展に大いに役立つものと考えられている。開発をさらに押し進めていく大きな推進力として日本人移住者の勤勉さと優れた農業技術に、大きな期待が寄せられている。

## ■パラグアイ国と日本

この国への日本人移住の歴史は昭和11年ごろから始まり首都アスンシオンに近いラ・コルメナ移住地には戦前すでに120家族が入植し、戦後初めて入植したアマンバイ地区、エンカルナシオン市近郊のチャベス移住地、それから当事業団が購入、造成したフラム、ア



ルト・パラナ、イグアスの各移住地に入植した移住者を含めると約1,500家族6,500人はどの日本人が活躍している。

特に昭和30年以來チャベス・フラムに日本人が入植するようになってからは日・両国間の関係は一層深くなり、移住協定や船舶借款、経済協力等緊密の度合が一層深まり今後の見通しは非常に明るいといえるであろう。

## ■アルト・パラナ移住地の概要

当事業団が昭和31年から分譲を始めたフラム移住地（約18,000ヘクタール）が満植となったので、新たに近接地のアカカラジャ、ピラボ・カーレンツ地区一帯約83,000ヘクタールを購入、これをひとまとめにアルト・パラナ移住地と呼んで、測量、耕地の区画割、道路建設、架橋工事を進め、現在すでに307家族（約1,600人）が入植し営農に励んでいる。

耕地の一区画は約30ヘクタール、入植地内の幹線道路は有効巾員8m（全巾員20米）、支線巾員は6米（全巾員16米）となっており、両国政府から準国道に指定されている。

この移住地はエンカルナシオン市から東北に約70kmの近くにあり、パラナ河沿いで土質はテラロシヤと云われる極めて肥沃な地帯、殆んど全地域が樹高15~25米の原始林に覆われた処女地である。標高は一番高い所で約120米で波形の緩い傾斜が起伏している。魚が多いので名高いピラボ川やその支流が地域内をいくつも流れており飲料水にも適するが、井戸も高所で大体15米前後ぐらい掘ると水が得られる。台地には水年作物を植付け、傾斜地は家畜の放牧に、低地はそのまま水田に利用出来ることもあるが、小川の水を利用して水田をつくったり、養魚池をつくっている人もある。

## ■イグアス移住地の概要

この移住地はアルト・パラナ県にあり、国際道路を挟んでは△三角形をなし、面積は約87,000ヘクタールで植園境界までは41軒ある。これもアルト・パラナ移住地と同様に測量、耕地の区画割（約30ヘクタール）、道路建設、架橋工事が行われ、昭和37年度から移住者が入植している。

標高は約250米前後で地域の北端をイグアス河、南端近くモンダイ河に囲まれた台地で土質は輝緑岩を母岩とする赤色の植土でアルト・パラナ移住地と同様であり、低地は水稲、野菜類の栽培に適する。

井戸も高所で大体深さ10~20米ぐらいで良い水が得られる。

## ■気 候

季節は南半球にある関係上日本とは逆で12月~2月が夏、6~9月が冬でその間に雨期がある。1月と7月の平均気温と平均降雨量をみると、エンカルナシオン測候所が過去10年間にわたって調査したところによると年間の降雨

エンカルナシオン測候所			
	最高	最低	平均
1月	32.3度 324.3mm	19.3度 37.2mm	25.8度 132.8mm
7月	21.6度 298.3mm	9.8度 40.4mm	15.7度 114.5mm

イグアス移住地測候所

	最高	最低	平均
1月	31.0度 308.0mm	6.3度 95.4mm	27.52度 154.6mm
7月	17.3度 95.4mm	6.3度 48.7mm	21.8度 152.9mm

量は約1,600耗(日本の全国平均は1,700耗)、イグアス移住地では年間約1,750耗で日本と殆んど変わらない。真夏の1月には40度近くに気温があがることもあるが、朝晩は比較的涼しく日本のようにむし暑いことはない。冬季の6~7月が一番寒く2~3回の降霜をみることがある。年間平均温度はイグアス移住地がアルト・バラナ移住地よりも1度前後高い。

農

アルト・バラナ移住地およびイグアス移住地の適作物としては永年作物で油桐、マテ茶、柑橘類の外ブドウ、スモモ、ピワ、梨、柿等の果樹類があり、最近では香料作物、繊維作物(ラミー)の試作にも成功している。また地域内の無霜地帯ではバナナ、パインアップル、パパイヤ等熱帯作物も盛んに栽培されている。その他短期作物としては水稲、陸稲、トウモロコシ、棉花、豆類、落花生、玉ねぎ、馬鈴薯、煙草、トマトその他の野菜類等多種多様になっている。分譲をうけた約30ヘクタールの開墾営農の進め方については、入植と同時に山伐、山焼を行い永年作物の植付をはじめると共に間作や裏作としてトウモロコシ、大豆、小麦、棉花等を作付けし年々これを拡大しながら養鶏、養豚、役肉牛の飼育や植林等を加えた多角経営が行われている。入植8年後の営農標準は大体次のようになっている。

アルト・バラナ移住地 (ha=ヘクタール)

永年作物、油桐(10ha) マテ茶(5ha) 柑橘(1ha) ラミー(1ha)  
短期作物、水稲(05ha) トウモロコシ(2ha) 豆類(2ha) 小麦その他(2ha) マンネヨカ(2ha) 林地(2ha) 宅地および放牧地(3ha) 家畜、役乳



イグアス移住地の道路

兼用牛10頭、豚24頭、鶏100羽、この外、マテ茶、油桐等永年作物の収入があるまでの換金作物として煙草、棉花、落花生等が植付けられている。

イグアス移住地

永年作物、油桐(10ha) 柑橘(3ha) 植林(2ha) 煙草およびラミー(1ha)  
短期作物、豆類(1ha) トウモロコシ(2ha) 水稲(05ha) マンネヨカ(2ha) 宅地および牧場(55ha) 原始林(3ha) 家畜、役乳兼用牛(10頭) 豚(24頭) 鶏(100羽)

作物別ヘクタール当り収量と粗収入

作物	ha当収量	単価	ha当粗収入	作物	ha当収量	単価	ha当粗収入
水稲(稈)	3,000kg	10.0*	30,000*	マテ茶(5年)	800kg	3*	2,400*
1期トウモロコシ	2,000*	3.5*	7,000*	*(7年)	2,800*	3*	8,400*
大豆	1,500*	8*	12,000*	*(9年)	3,400*	3*	10,200*
ポロト	1,200*	8*	9,600*	柑橘(4年)	20,000個	0.25*	5,000*
小麦	800*	7.5*	6,000*	*(6年)	80,000*	0.25*	20,000*
棉花	1,000*	13*	13,000*	*(8年)	160,000*	0.25*	40,000*
煙草	1,500*	24*	36,000*	*(10年)	200,000*	0.25*	50,000*
落花生	1,500*	9*	13,500*	ユーカリ(6年)	140,000*	0.60*	84,000*
油桐(満5年)	500*	6.5*	3,250*	*(12年)	200,000*	0.60*	120,000*
*(満7年)	1,500*	6.5*	9,750*	ラミー(1年)	500kg	30*	15,000*
*(満8年)	2,000*	6.5*	13,000*	*(2年)	1,000*	30*	30,000*
				*(3年)	1,500*	30*	45,000*

■移住地の施設

収容所

エンカルナシオンと移住地内に収容所があり、特に後者は入植者が仮小屋を造って自分の分譲地に定着するまで比較的長く滞在するところであるので種々の設備が完備している。



パラグアイとブラジルを結ぶ国際大橋

教育施設

現在アルト・パラナに小学校が5校(9棟)、イグアスに2校開校されており、教師はブラグアイ国文部省から派遣されている。

医療機関

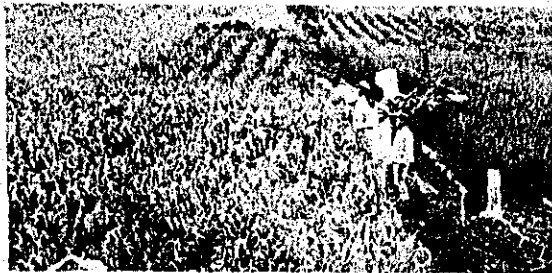
アルト・パラナ・イグアスに夫々診療所があり、専任医師が駐在して診療にあたり、また、エンカルナシオン市、アスンシオン市にはアメリカの慈善団体経営の総合病院があり無料診療をしている。

その他

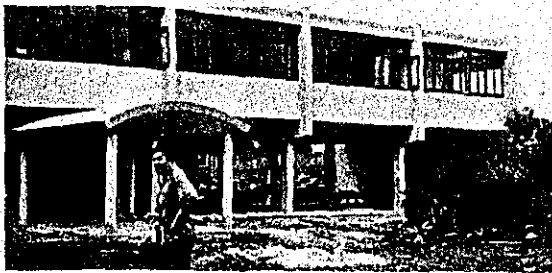
農協共同販売所、倉庫、共同作業場等が移住地内の各所にあり、警察署、試験農場も設置されている。

移住の詳しい相談は

各都道府県の海外協会では移住を希望される人々のために種々の資料を整えて相談に応じている。移住の資格条件、土地の分譲条件、営農資金、畜舎並びに住宅建設資金、大農機具購入資金、携行小農具購入資金等の融資、渡航費の貸付及び支度金、交通費等の補助に対する相談、手続を行なっておりますので居住県の海外協会にお出で下さい。



アルト・パラナ移住地に出来た日本式水田

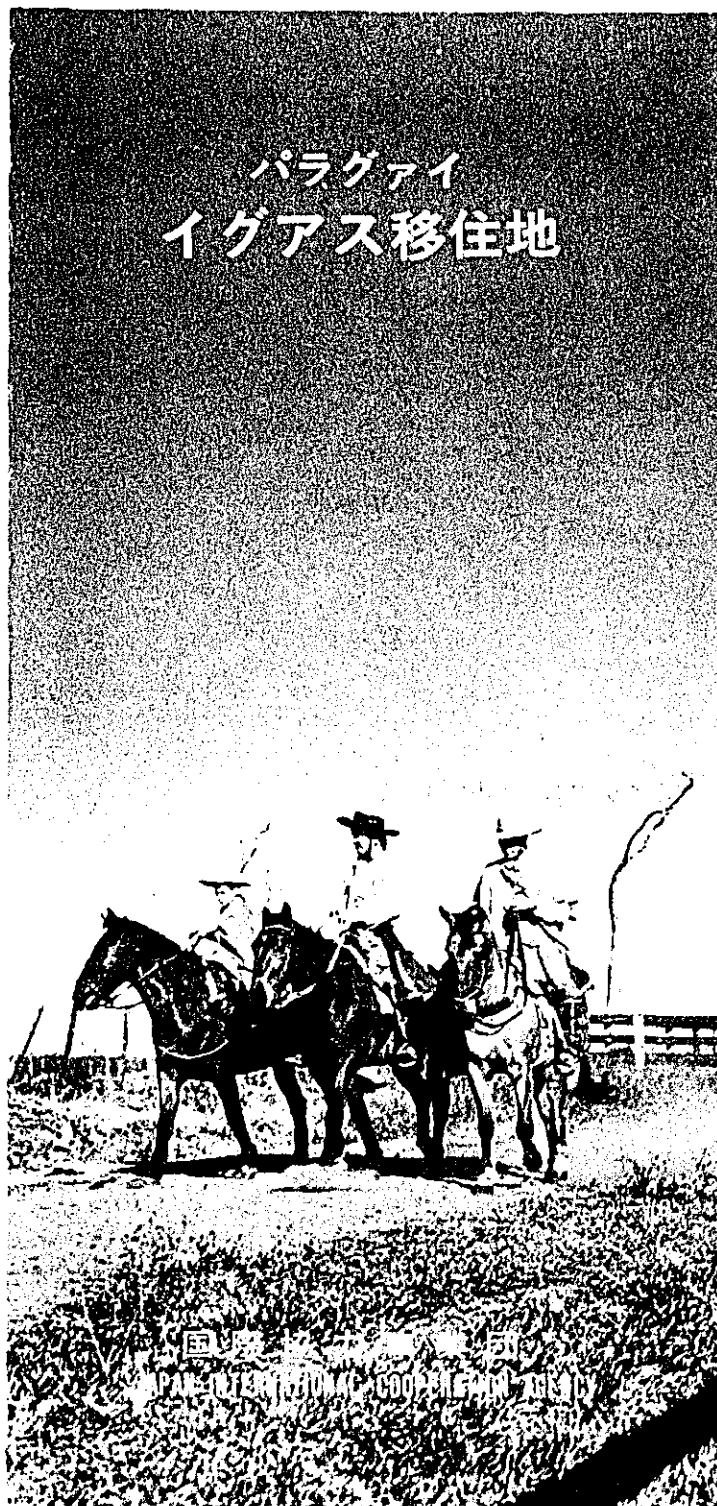


完成間近い移住者宿泊センター

地方海外協会住所一覧表

地方海外協会名	所在地	主管名	
東北ブロック	北海道海外協会	北海道札幌市北3条西5丁目	北海道庁農政課
	青森県海外協会	青森市大字大野字長島1	青森県庁農政課
	岩手県海外協会	盛岡市内丸1	岩手県庁農政課
	宮城県海外協会	仙台市勾当台通27	宮城県庁農地開拓課
	秋田県海外協会	秋田市川尻六十町1の1	秋田県庁農地開拓課
	山形県海外協会	山形市旅籠町301	山形県庁農地開拓課
関東ブロック	福島県海外移住協会	福島市修善町16	福島県庁農林課
	新潟県海外協会	新潟市学校町通1番町	新潟県庁秘書課
中部ブロック	茨城県海外協会	水戸市北3の9119	茨城県庁拓務課
	栃木県海外協会	宇都宮市橋田町504	栃木県庁農地開拓課
	群馬県海外協会	前橋市曲輪町乙の69群馬会館	群馬県庁文書課
	埼玉県海外協会	浦和市高砂町4丁目49 埼玉県自治会館	埼玉県庁農政課
	千葉県海外協会	千葉市市場町2	千葉県庁農地開拓課
	東京都海外協会	千代田区丸の内3の1	東京都庁外務課
	神奈川県海外協会	横浜市中区日本大通	神奈川県庁農政課
	山梨県海外協会	甲府市橋町18	山梨県庁開発課
	信濃県海外協会	長野市大字南長野町字山下692の2	長野県庁農地開拓課
	静岡県海外移住協会	静岡市道手町251	静岡県庁農地計画課
東海ブロック	富山県海外移住協会	富山市穂曲輪1	富山県庁農地開拓課
	石川県海外協会	金沢市広坂通2	石川県庁農地開拓課
	岐阜県海外協会	岐阜市司町1	岐阜県庁農政課
	愛知県海外移住協会	名古屋市中区南外堀町6の1	愛知県庁農地開拓課
近畿ブロック	三重県海外協会	津市栄町1丁目179	三重県庁開発振興課
	福井県海外協会	福井市御本丸1	福井県庁農政課
	滋賀県海外協会	大津市東浦1番町	滋賀県庁農政課
	京都府海外協会	京都市下立売通釜屋東入り教内町	京都府庁農地開拓課
	大阪府海外協会	大阪市東区法円坂町10 大阪府農林会館内	大阪府庁農政課
	兵庫県海外協会	神戸市生田区山本通591	兵庫県庁外務課
中国ブロック	奈良県海外協会	奈良市登大路町8	奈良県庁管理課
	和歌山県海外協会	和歌山市小松原通り1の1	和歌山県庁移民課
	鳥取県海外協会	鳥取市東町	鳥取県庁農地開拓課
	島根県海外協会	松江市殿町1	島根県庁農地開拓課
四国ブロック	岡山県海外協会	岡山市山下字中地81-8	岡山県庁農政課
	広島県海外協会	広島市基町	広島県庁外務課
	山口県海外協会	山口市大字上宇野台裏島	山口県庁農政課
九州ブロック	徳島県海外協会	徳島市万代町1丁目	徳島県庁農政課
	香川県海外移住協会	高松市八幡町の1	香川県庁農地開拓課
	愛媛県海外協会	松山市1番町	愛媛県庁農地開拓課
	高知県海外協会	高知市丸の内5	高知県庁農地開拓課
	福岡県海外協会	福岡市天神町1	福岡県庁海外移住課
	佐賀県海外協会	佐賀市赤松町35	佐賀県庁農地開拓課
九州ブロック	長崎県海外移住協会	長崎市椿島町35	長崎県庁農地開拓課
	熊本県海外協会	熊本市長安寺町22	熊本県庁移民課
	大分県海外協会	大分市南陽町1	大分県庁農地開拓課
	宮崎県海外協会	宮崎市別府町10	宮崎県庁農政課
	鹿児島県海外協会	鹿児島市山下町68	鹿児島県庁農地開拓課

パラグアイ  
イグアス移住地



国境を越えて  
PARAGUAY INTERNATIONAL COOPERATIVE TRADING

## ☆パラグアイ国の概要

南米大陸の南方地域の中心に位置する内陸国で、北はボリビアおよびブラジルと、東はブラジル、アルゼンティンと、西はボリビア、アルゼンティンに、そして南はアルゼンティンと夫々国境を接する面積406,752平方キロ(日本よりやや大きい)を有する共和国です。

人口は250万人で、そのほとんどがスペイン人と原住民のグアラニーインディオとの混血で、純粋のヨーロッパ系人種は、2%程度です。

気候的には、亜熱帯性に属し、地域的には多少異なりますが、平均気温22.5℃、夏期平均31.5℃、冬期は14.5℃と記録されています。

産業経済面で見ますと、国民の約60%が農業に従事しており主要産物はタバコ、棉花、トウモロコシ、小麦、油桐、マテ茶、大豆等ですが、近年は日本人移住者によって大規模栽培されている大豆が輸出品として大きな注目をあけていますが、なんといっても代表的な産業は、牧畜ということになるでしょう。現在、パラグアイ全土で肥育されている牛の頭数はおおよそ500万頭、国民1人に半2頭になる勘定です。

日本との関係、パラグアイは、親日的なラテン・アメリカ諸国の中でも特に親日的な国として知られています。戦前にも日本人の同国への移住の実績はあるのですが、本格的かつ計画的に移住が始まったのは、昭和31年からで、昭和34年には、日本、パラグアイ両国の間に移住協定が結ばれ、日本は30年間に85,000人が移住できることになっております。

## ☆イグアス移住地の概況

パラグアイ国の首都アスンシオン市から、ブラジル国の大西洋岸の要港パラナグア港を結ぶ完全舗装の国際道路が移住地の真中を東西30kmにわたって貫通しているこの移住地は、国際道路を南北に挟み、ほぼ三角形をなした総面積87,763haの当事業団直営の移住地です。

ブラジルとの国境は、移住地の市街地から41kmのところであり、これを越して更に30kmブラジル領に入ったところに、世界的に有名なイグアス瀑布があります。そしてこの国際道路沿線地帯は、パラグアイ国の最重点開発地域になっており、国境付近の水力発電所の完成や近代都市、工業都市計画の進行につれて最も将来性のある農牧林産業地帯になっています。それだけに、この地域の開発速度は著しく、日本人により開発の進められているイグアス移住地は、入植者の発展とともに近年、日本からの大型の牧畜企業等の進出もあって注目のまよになっています。

## ☆入植地の創設

この移住地の創設は、昭和35年で直ちに測量、造成工事が進められ、翌36年には“先聲”移住地であるフラム・チャベス両移住地より分家独立家族14戸が第1陣として入植しました。日本からの

直接入植は、2年後の38年第1陣の9家族に始まり、52年9月までに230戸が入植して、着実に営農を進めています。

## ☆地形と土壌

この地形は、標高が最低182m、最高229mで南北に分水嶺が連なって走り、東西に緩やかなスロープを面く丘陵で、農耕地には最も適した地形です。土壌、表土は、テラ・ロッシヤと呼ばれる黄赤色の肥沃なラテライト化土壌が深く占めており、粘土質が50%以上あるところも多い。従って、適度の雨量がある場合は、植物にとっては最高に良い状態にあるといえましょう。

## ☆社会環境

移住地の市街地には事業団の管理事務所、診療所、警官詰所、公立小学校等が設置されています。ことに一番大切な診療所は、入院、手術の設備もととのっており、日本から派遣された医師が常駐し、日本からの入植者だけでなく移住地全体の衛生管理にあたっています。

また、営農面では、経験豊かな、農業、畜産技師を配した「パラグアイ農業総合試験場」を設置し、イグアス移住地のみならず、パラグアイの日本人移住地の指導をおこなうと同時に牧畜、雑作、飼料作物及び養蚕等の試験研究をおこなっており、パラグアイ国政府からも大きな期待が寄せられています。

この他、市街地には、電話局、農協事務所および15～6戸の商店と教員及び一般用住宅が建設され、入植者による自治組織もあり、移住地は、日に日に整備されています。電気は市街地を中心に電化がすすみ、将来、全戸に電化される計画になっております。



(近代設備と陣容をもつ農業総合試験所)

## ☆イグアスで営農するには

自然条件に恵まれているこの移住地では、いろいろな熱帯、亜熱帯作物、温帯作物の栽培が可能です。国内ばかりでなく国際市場を考えると作目も選ばれてきます。

畜産を中心に、柑橘、油料類の永年作物、アメリカ松、パラナ松、台湾桐といった植林、国際商品である大豆、棉花、トウモロコシ、マンジョカといった作物を多角的に取り入れた営農が、この基本です。

経費をかけた少面積の多収穫を目的とした日本式な“サラリーマン農業”はここでは通用しません。パラグアイで農業をするにはまず、日本的な考え方を切替えることです。永年作物、牧場経営により、土地を拡大して行き、10年・20年の将来に蓄積された資産が非常に大きなものになり、それを基礎にしたスケールの大きい営農が行なわれる—これがイグアス型営農といえましょう。

## ☆営農の実際

ここで、実際に入植して営農している先輩移住者の方を紹介してみましよう。

〈昭和39年入植 Yさん(39歳) 岡山県出身〉

Yさんは、イグアスにおける雑作+牧畜型の中堅農家で、大豆、トウモロコシ等の雑作を主体に牧畜を取り入れた健全な営農を行なっています。

将来は、更に牧場(現在58ha)を拡大して、牧畜主体の営農型態の確立を図る計画です。

所有地310ha、肉牛100頭、住宅、倉庫、オートバイ、トラクター、トレーラー、エンジン、動力噴霧機等を所有し、資産の評価額は、約2,700万円、負債は、事業団よりの借入金、土地代残等で約550万円となっています。

## ☆家庭生活・衣食住と主婦の仕事

移住地内には日本人、パラグアイ人経営の商店があり一般の生活必需品は、これら商店でほとんど調達できます。また大量に必要とするもの、日本的なものについては、農協の購売部を通じ一括購入され、入植者に供給されています。

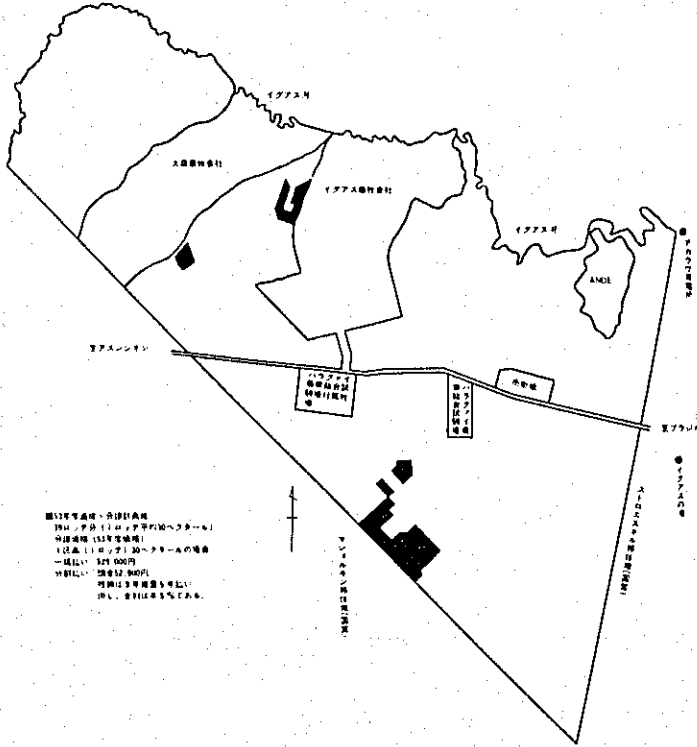
＝衣食住＝食生活は通常の日本食—米・味噌・しょう油・漬物—には不自由しません。肉野菜が豊富なところから、これを取り入れた質量共に豊かな食生活が約束されています。

〈衣〉は一般的に農作業が多いのですから、普段は丈夫な、例えばジーンズなどで十分です。作業衣はパラグアイ製のものが割合安く購入することができます。

〈住居〉入植当初は入植する土地からひいた材木を用いた木造の家屋がほとんどです。が、経費的には木造の2～3倍はかさみませんができればレンガ造とした方がいろいろの面で有利であるばかりでなく、将来的にみればむしろ経済的といえるでしょう。

〈主婦の仕事〉食事、洗濯、掃除、買物等、日本の主婦一般の生活と変りはありません。ただ異なる点は日本の農業とは桁違いの規模での農耕ですので、主婦が農作業の担い手になるということ、そう多くはなく、せいぜい自家用菜園の世話が主になるといったところでしょう。

☆イグアス移住地の分譲条件



☆事業団の融資（個人の場合）

入植者の中、自営農（経済的に独立して農業を営むもの、借地農分益農も含む）であって、未だ安定した農業経営の段階に達していない方、または自営農として独立しようとする方に対して、次の融資を行っております。

設備資金および長期運転資金

土地の購入、造成、開墾資金および永年作物の植付、管理、家畜の購入、飼育資金ならびに農業用機械・機具・農産加工施設、交通運搬機具、家屋、農舎、畜舎等の取得又は建設に必要な資金、その他営農に必要な設備資金および、長期運転資金として上記の資金用途及びその組合せにより、当事業団の融資審査を経て、最高 800 万円を限度として融資しております。但し、自己資金 2 割に、担保及び保証人が必要です。

短期運転資金

短期作物の植付、管理、収穫資金および生産物販売用資材の購入資金ならびに農業用機械機具、交通運搬機具の補修資金その他営農に必要な短期運転資金として、30 万円を限度として融資しております。但し、自己資金 2 割に、担保及び保証人が必要です。

移住のご相談と受付

国際協力事業団は、昭和49年5月31日、国際協力事業団法（法律第82号）により設立され（同年8月1日発足）、本部を東京におき、移住部門では海外移住センター（横浜市）、海外移住研修所（群馬県）および国内に11の支部、9の駐在員、海外ではリオ・デ・ジャネイロを始め9都市に支部、およびロス・アンジェルス（米国）、トロント（カナダ）に各駐在員事務所をおいています。国内支部では外国に移住する人々に対して、海外移住知識の普及および相談・あつせん・指導等を行なっている公的実務機関です。海外移住についてのご質問がありましたらご遠慮なく、最寄りの各機関にお尋ね下さい。

国際協力事業団国内機関一覧表

機 関	〒	所 在 地	電 話
本部 (移住部門)	160	東京都新宿区西新宿2-1 北丸箱216号 (新宿三井ビル内) 移住広報課	03 346-5365-7
(付属機関) 海外移住センター	235	横浜市磯子区西町16-5	045 751-1121-5
海外移住研修所	371-02	群馬県勢多郡宮城村大字柏台字溝ノ口4114	0272 83-3225
<b>(国内支部)</b>			
北海道支部	060	札幌市中央区北一条西5 (北一条ビル内)	011 221-6661
仙台支部	980	仙台市本町3-4-10 (宮城県水産会館内)	0222 63-0795
(青森駐在員)	030	青森市延島1-1-1 (県立青森民衆館内)	0177 22-1111 (内線5615)
(秋田駐在員)	010	秋田市山王4-1-2 (秋田地方総合庁舎内)	0188 23-7368
東京支部	160	東京都新宿区本町町8-2 (住友生命四ツ目ビル内)	03 359-8281
(新潟駐在員)	950	新潟市東大通1-3-1 (管町ビル211号)	0252 47-1918
(静岡駐在員)	420	静岡市道平町9-6 (県後援者養成館内)	0542 54-2056
名古屋支部	460	名古屋市中区丸の内2-4-7 (県商業貿易館西館内)	052 221-7104
富山駐在員	930	富山市新富町2-4-22 (晴西工舎館内)	0764 41-6992
大阪支部	530	大阪市北区豊崎町新地1-3-16 (京富ビル内)	06 345-3621
神戸支部	651	神戸市東灘区御幸通8-1-6 (国際会館内)	078 221-6520
(岡山駐在員)	700	岡山市新堀町17-17 (県農業会館別館内)	0862 22-0882
広島支部	730	広島市基町10-3 (県自治会館内)	0822 27-0471
(山口駐在員)	753	山口市大町6-5 (県庁6号庁舎内)	08392 3-2548
高松支部	760	高松市番町5-1-24 (観光ビル内)	0878 33-0901
福岡支部	812	福岡市博多区博多駅前2-9-28 (商工会議所ビル内)	092 451-3380
(長崎駐在員)	850	長崎市元町町17-1 (大崎ビル内)	0958 24-6280
熊本支部	860	熊本市花畑町1-4 (熊本県生命館内)	0963 22-1315
(宮崎駐在員)	880	宮崎県江平東2-6-35 (県庁一の鳥居別館内)	0985 25-2691
沖縄支部	900	那覇市西3-10-102	0988 66-0130